

学校法人日章学園 宮崎医療福祉専門学校 令和6年度の自己評価に対する学校関係者評価結果

令和7年5月21日実施

3段階評価 A：達成 B：一定の成果あり C：不十分 右の評価は A=3 B=2 C=1 で点数化

自己評価(総合)	B (2.2)	学校関係者評価(総合)	B (2.4)
----------	----------------	-------------	----------------

教育の方針		確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。		
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
1. 建学の精神をもとに医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	① 毎日の朝礼とホームルームで建学の精神の唱和を行い、建学の精神を確認し、日々の教育の基とした。 ② 学園努力目標及び学校と各学科の努力目標を3カ月毎に自己評価し職員会議で共通理解を図り、改善につなげた。 ③ 毎朝の学科内ミーティングで学生状況を常に確認・共有して、学校・学科の目標に沿う人材育成に努めた。	B	・学園努力目標及び学校と学科の努力目標が設定されており、客観的に評価する指標があり評価しやすい。 ・人材育成に十分取り組まれている。 ・建学の精神に基づいて、日頃より医療福祉現場で実習する姿勢について教育されていることが、実習態度で見受けられる。
2. 国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	A	① 両学科とも、国家試験対策の研修を受講し従来の対策を見直し、3年生の模擬試験日程・成績不良者の対策等を変更した。 ② 1・2年次は担任中心に計画的に対策を行い、基礎基本の徹底を図った。 ③ 国家試験合格率は看護師100%、理学療法士97,1%であった。	A	・両学科とも国試合格率の高さは素晴らしい。 ・学習支援の充実している。 ・個々の学生に合わせて丁寧に指導されている。
3. 学生募集の推進	C	① オープンキャンパスを4回実施したが、受験対象の参加者79名で数値目標達成率58%となり、昨年より大幅に下回った。なかでも、社会人の参加者が5名で大幅に減少した。 ② 12月以降、学校説明会などを行ったが、参加者はほとんど令和8年度以降の受験対象者であった。 ③ 入試受験者数は、受験者総数で前年度比27名減少した。入試区分では一般入試が前年度比13名の減だった。	C	・学生確保を困難にしている背景には、少子化もあるが、生徒たちが職業選択で看護師を選ばなくなっている。中学・高校生はもちろんだが、小学生へも看護をアピールする取り組みが必要である。 ・県内の看護専門学校が増加しており、各校定員確保に苦慮されている。その中で、地理的条件を考慮するとよく努力されている。 ・学生確保にむけて詳細に分析し、対策を講じてほしい。
4. 退学生の防止	B	① 各学科具体的数値目標を掲げ、数値を意識して活動した。 ② 心理診断結果を参考に、教員が科学的裏づけを基に学生個々への丁寧な指導を展開。また毎日学科ミーティングを実施して、退学の恐れのある学生を確認し指導のあり方について協議を重ねた。 ③ 後期から教育相談(3/月)、学習指導研修(1/月)を開催した。その結果、教員の意識が高まり、学習指導方法などを変更した。その結果、学生は学習意欲が高まり、令和6年度入学生に退学休学者はいなかった。 ④ 退学者数は11名、前年より3名増となった。また、休学者2名で、昨年より減少した。	B	・1年次からカウンセリングや個別面談などを充実して、学校生活に順応できるよう指導し、退学生が減少する努力をしていただきたい。 ・退学生を出さない取り組みを、継続していただきたい。
5. 個を生かす進路指導の推進	A	① 1年次から定期及び随時に個別面談を行い、進路希望を把握し、毎月の学科会で情報を共有し個別指導に役立てた。 ② 臨地実習を通して、進路について考える機会を設け、ほとんどの学生が適性を考え自分で進路を決定している。 ③ 関連施設及び卒業生による就職ガイダンス、3年生による在校生に向けた就職試験説明会等を開催した。 ④ 両学科ともに就職率100%であった。	A	・学生の個を活かした進路指導が行われ、就職率100%を達成できたことは高く評価できる。しかし、県内就職率が昨年より低下しているため、若者の県内定住のために、県内就職率を従来の70%以上になるように指導していただきたい。
6. 地域連携強化の推進	B	① 西都市社会福祉協議会と災害時ボランティア協力を締結した。学生の有志が、災害時ボランティア活動の研修会に参加し、災害発生時には活動できるように訓練をした。 ② 西都市主催の“古墳祭り”“このはなマラソン大会”に学生及び教員がボランティアに参加した。また“このはなマラソン大会”に約70名が競技に参加した。 ③ 本校主催のMMC杯バレーボール大会を開催し、女子高校生約100名が参加した。両学科ともに、病院職員を対象に、実習指導者講習会の講師として協力した。	A	・学生とともに教職員も一緒になって、ボランティア活動および地域の行事に参加されており、学生が地域に関心を持つ取り組みがされている。今後も地域連携強化に努めていただきたい。 ・西都市における地域リハビリテーション活動支援事業があるので、専門職団体との活動を取り入れていくと、学生の学びが深くなる。

※「外部評価」は7名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評価です。「学校関係者評価(総合)」は名の「外部評価」6項目の平均を四捨五入した結果の評価です。